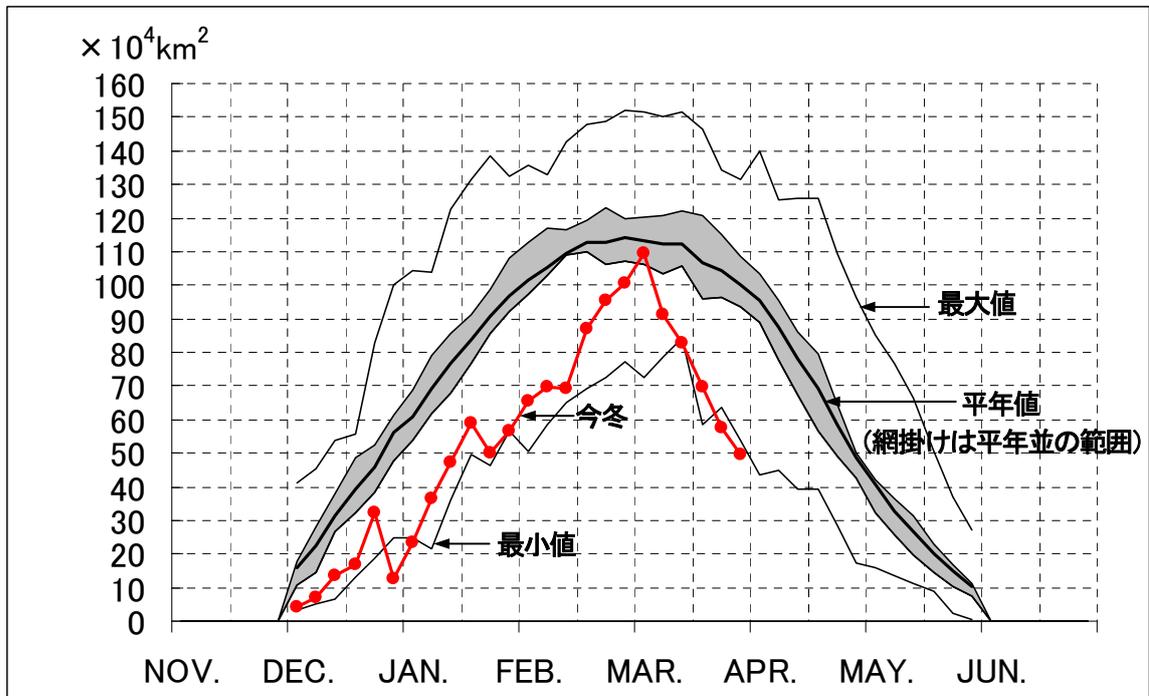


海氷概報

第 3 報



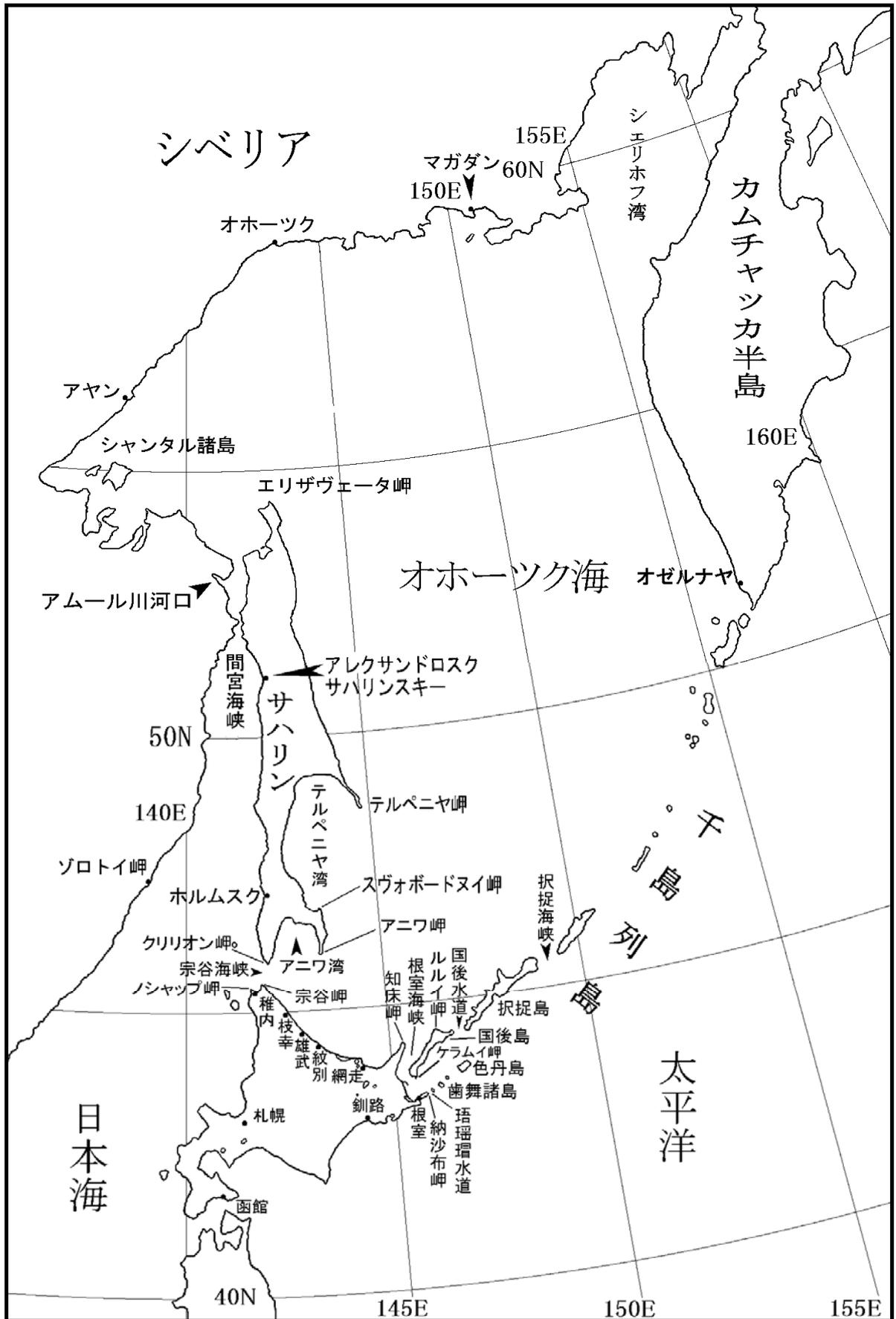
2009年3月

今冬のオホーツク海の海氷域面積の経過図(2009年3月31日まで)

札幌管区気象台

目 次

1. 解 説	1
1.1 用 語	1
1.2 海氷の種類とその記号	1
2. 海 氷 概 況	2
3. オホーツク海全域の海氷分布図	3
4. 北海道周辺海域の海氷実況図	5
5. 沿岸海氷観測月表	8
6. 参 考 資 料	13
6.1 オホーツク海30年平均半旬別氷縁図(1970/1971～1999/2000)	13
6.2 流氷初終日等の平年値(1971～2000年の平均)	15



オホーツク海周辺図

1. 解 説

1.1 用 語

海 氷 用 語

- 海 氷：海水が凍結してできた全ての氷。
 定 着 氷：海岸に接して形成された定着している海氷。その場の海水が凍結するか、流氷が海岸に固着して形成される。
 流 氷：定着氷以外の全ての海氷で、その形態や配置には関係しない。
 新 成 氷：結氷により新しく形成された氷の総称。
 密 接 度：ある氷域に対し、その中の氷に覆われている海表面の占める割合を10分位法で表したものの。
 水 路：海氷域の中で、海上の航行が可能な狭い通路。
 開放水面：航行可能な広い海域。

沿 岸 の 海 氷 現 象

- 流 氷 初 日：視界外の海域から漂流してきた流氷が、視界内の海面で初めて見られた日。
 流 氷 終 日：視界内の海面で流氷が見られた最後の日。
 流 氷 期 間：流氷初日から流氷終日までの日数。
 全 氷 量：視界内の全海面に対し、この中に存在している全海氷の占める割合。10分位法で示す。
 流氷接岸初日：流氷が接岸、または定着氷と接着して沿岸水路が無くなり船舶が航行できなくなった最初の日。
 海 明 け：全氷量5以下になり、かつ沿岸水路ができて船舶の航行が可能になった最初の日。

1.2 海氷の種類とその記号

種 類	記 号	細 分 種 類	記 号	厚さ、大きさ等
新 成 氷	N	晶 氷	Cr	
		グリーンアイス	Gr	
		雪 泥	Sl	
		スポンジ氷	Sg	
ニ ラ ス	Ni	暗いニラス	Nd	厚さ 5cm 未満
		明るいニラス	Nl	厚さ 5~10cm
		氷 殻	R	厚さ 5cm 程度
はず葉氷	P	はず葉氷	P	厚さ 10cm 程度 直径 30~300cm
板状軟氷	Y	薄い板状軟氷	Y1	厚さ 10~15cm
		厚い板状軟氷	Y2	厚さ 15~30cm
一 年 氷	W	薄い一年氷	W0	厚さ 30~70cm
		並の一年氷	W1	厚さ 70~120cm
		厚い一年氷	W2	厚さ 120cm 以上
砕 け 氷	Br	砕 け 氷	Br	直径 2m 以下
板 氷	Ck	小 板 氷	Cs	直径 2m 未満
		板 氷	Ck	直径 2~20m
氷 盤	F	小 氷 盤	Fs	直径 20~100m
		中 氷 盤	Fm	直径 100~500m
		大 氷 盤	Fb	直径 500~2000m
		巨 氷 盤	Fv	直径 2~10km
		巨大氷盤	Fg	直径 10km 以上
		大 氷 岩	Fl	氷高 5m 以下
平たん氷	L	平たん氷	L	
変 形 氷	H	氷 丘	H	

(注)厚さ 10~15cm は 10cm 以上 15cm 未満とする。

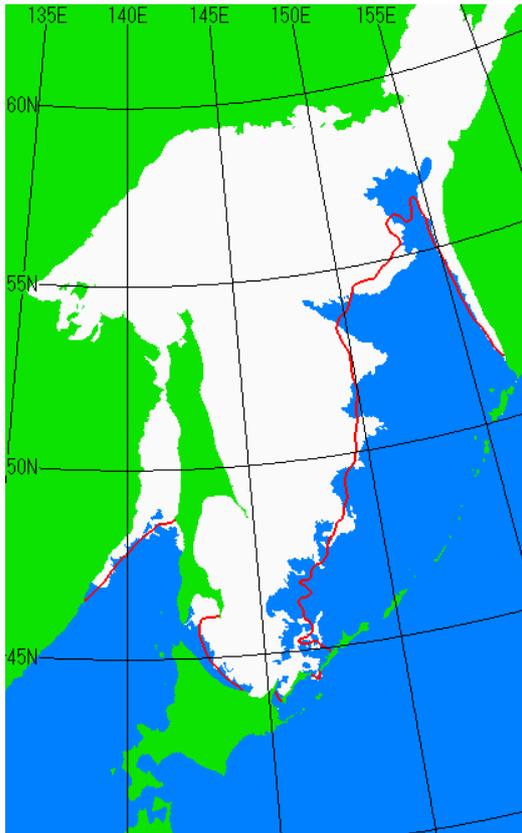
2. 海氷概況

3月 オホーツク海の家氷域面積は、3月初めに一時平年並となったが、その後オホーツク海を次々と低気圧が通過した影響で、オホーツク海には暖気が入り、海氷域は急速に縮小し、下旬には、12月下旬に続き今シーズン2度目の過去最小を記録した。北海道周辺は、気温及び海水温が平年より高い状態で経過した。3日には網走で平年より21日早い海明けとなり、17日には統計開始以来最も早い流氷終日となった。また、流氷期間は43日と最も短い記録となった。

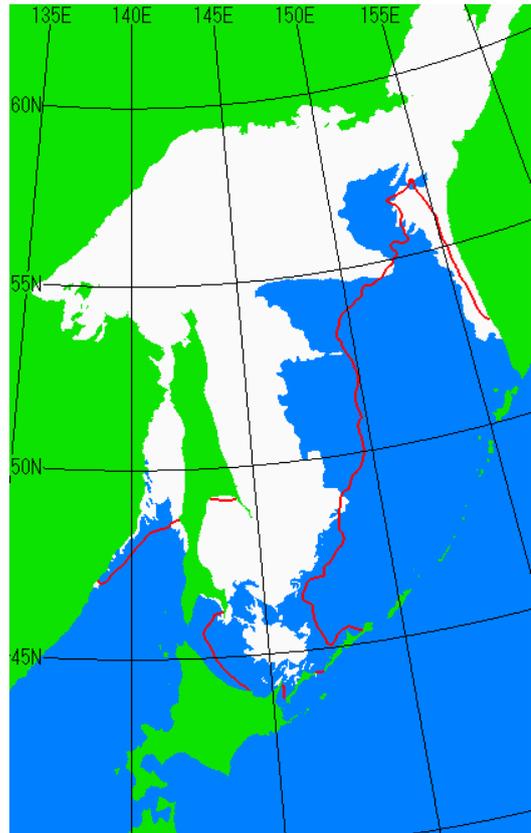
海氷状況(上段)及び気象経過(下段)	海氷現象初終日 (平年差/昨年差)
<p>上旬(1日~10日) オホーツク海側南部の家氷域は、旬の初めは網走市から知床岬にかけての所々で接岸した状態となった。その後、知床半島より西ではやや後退し、網走で平年より21日早く、昨年より34日早い海明けとなった。6日から7日にかけて発達した低気圧が通過した影響で、海氷域は北海道オホーツク海側沿岸から融解しながら大きく後退した。10日には根室海峡の家氷は、国後島の所々で接岸した状態となった。また、国後水道から太平洋へ小規模な流氷の流出が続いた。</p> <p>オホーツク海の家氷域面積は、平年より小さかった。</p> <p>3日や9日は高気圧に覆われたが、気圧の谷や低気圧の通過する日が多かった。6日から7日にかけては発達した低気圧が通過し、南や西よりの風が強まった。</p> <p>オホーツク海側4地点(北見枝幸、雄武、紋別、網走)の旬平均気温は、平年よりかなり高かった(平年差 +2.5℃)。</p>	<p>海明け 3日 網走 (早21/早34)</p>
<p>中旬(11日~20日) オホーツク海側南部の家氷域は、14日から15日にかけて発達した低気圧が通過した影響により融解しながら北上し、17日には網走で統計開始以来最も早い流氷終日となった。また、知床半島や国後島に接岸していた海氷も離岸した。20日には海氷域の南端は北緯45.0度付近まで後退した。</p> <p>オホーツク海の家氷域面積は、平年より小さかった。</p> <p>11日と12日は冬型の気圧配置となった。14日から15日にかけては発達した低気圧が通過し、南や西よりの風が強まった。その後も気圧の谷や低気圧が通過した。</p> <p>オホーツク海側4地点の旬平均気温は、平年よりかなり高かった(平年差 +3.4℃)。</p>	<p>流氷終日 17日 網走 (早30/早24)</p>
<p>下旬(21日~31日) 知床半島や国後島から離岸した小規模な海氷は22日に択捉島に一部接岸したがその後、融解した。オホーツク海南部の海氷域は融解が進み、旬末には北海道沿岸の家氷は全て融解した。31日には、海氷域の南端は北緯45.5度付近まで後退した。</p> <p>オホーツク海の家氷域面積は、平年より小さく、旬後半には1971年の統計開始以来最小となった。</p> <p>21日は高気圧に覆われたが、その後は気圧の谷や低気圧が周期的に通過した。</p> <p>オホーツク海側4地点の旬平均気温は、平年並であった(平年差 +0.7℃)。</p>	<p>該当なし</p>

3. オホーツク海全域の海水分布図

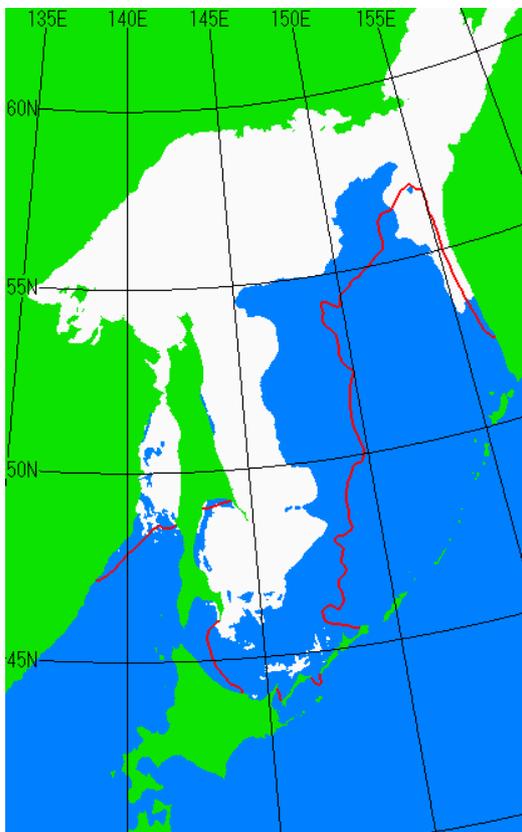
(白い領域が海水域です。赤線は平年(1971~2000年の平均)の海水縁です。)



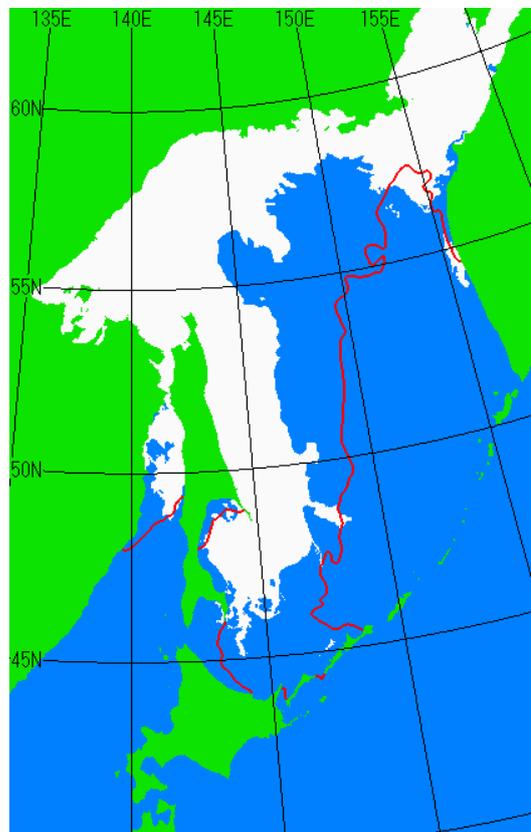
2009年3月5日



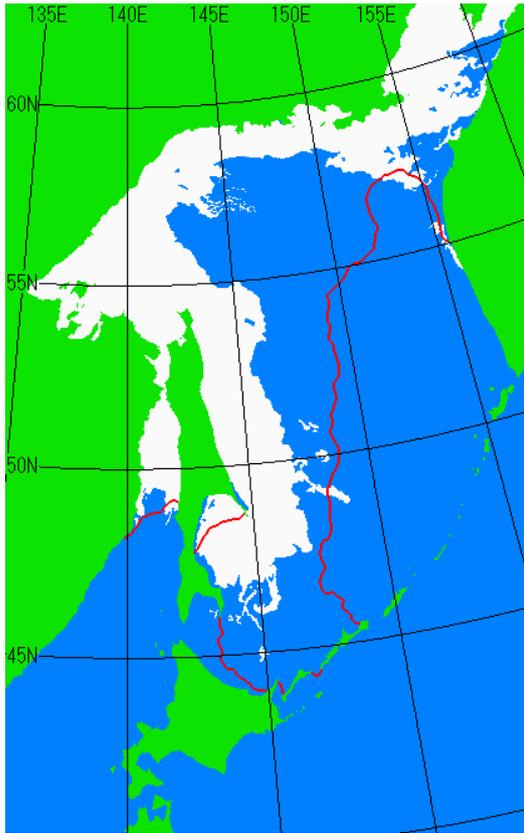
2009年3月10日



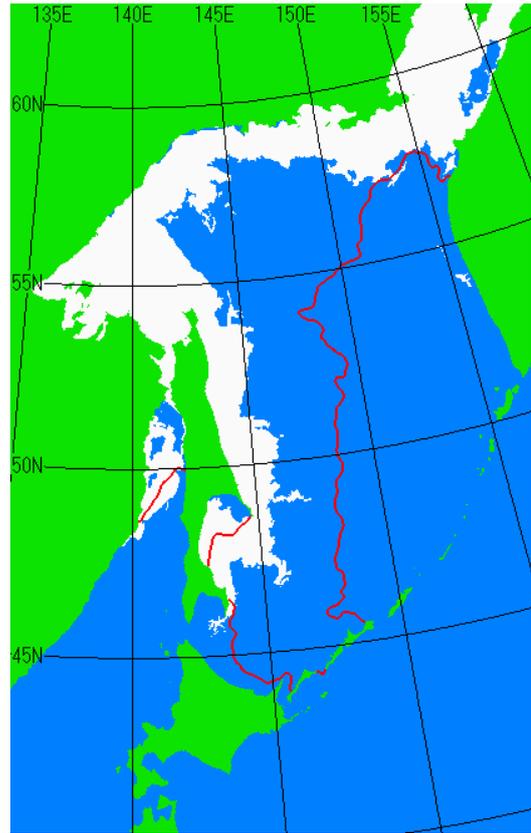
2009年3月15日



2009年3月20日



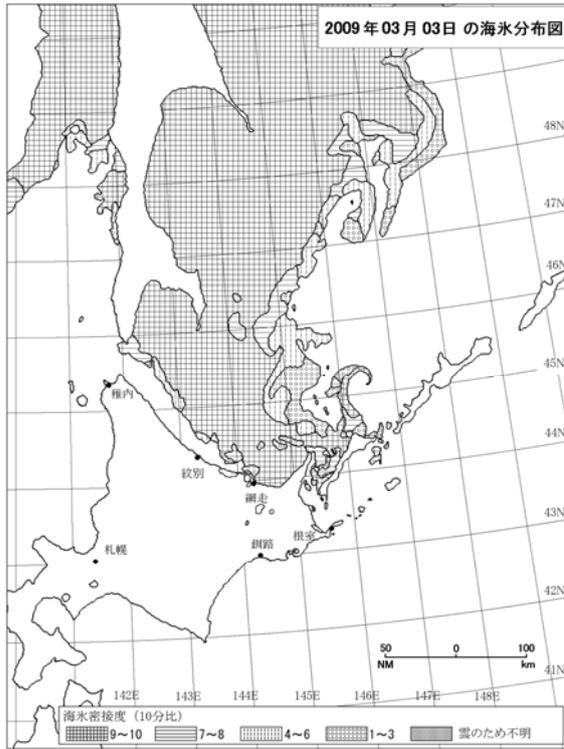
2009年3月25日



2009年3月30日

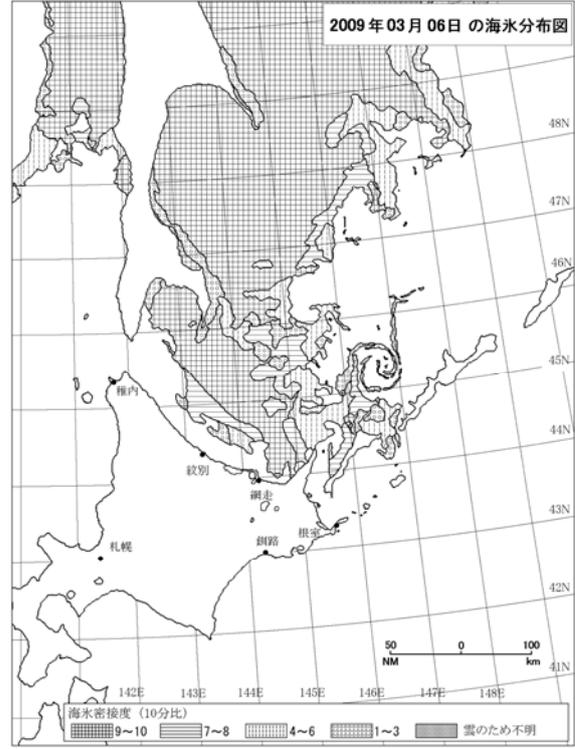
4. 北海道周辺海域の海水実況図

2009年3月3日



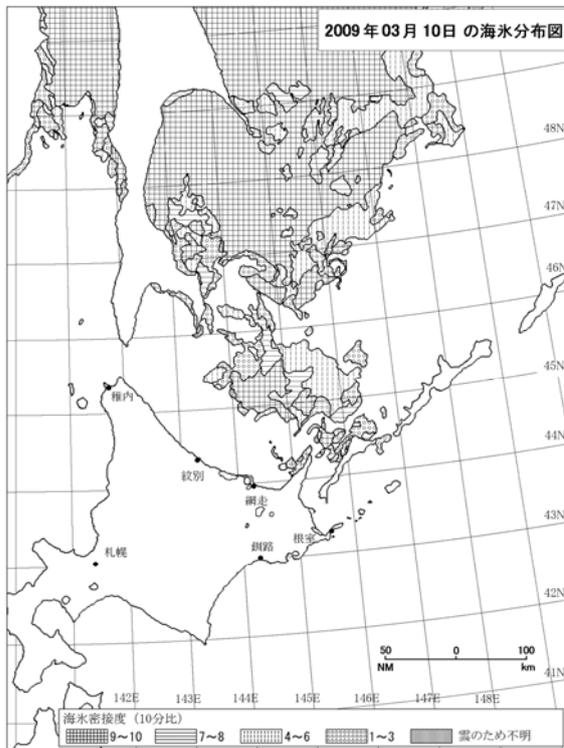
資料：気象衛星・陸上自衛隊

2009年3月6日



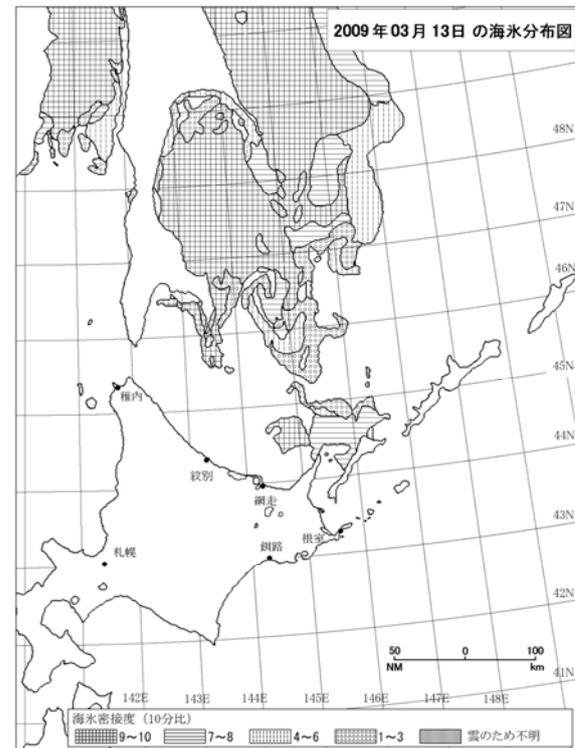
資料：気象衛星・海上保安庁

2009年3月10日



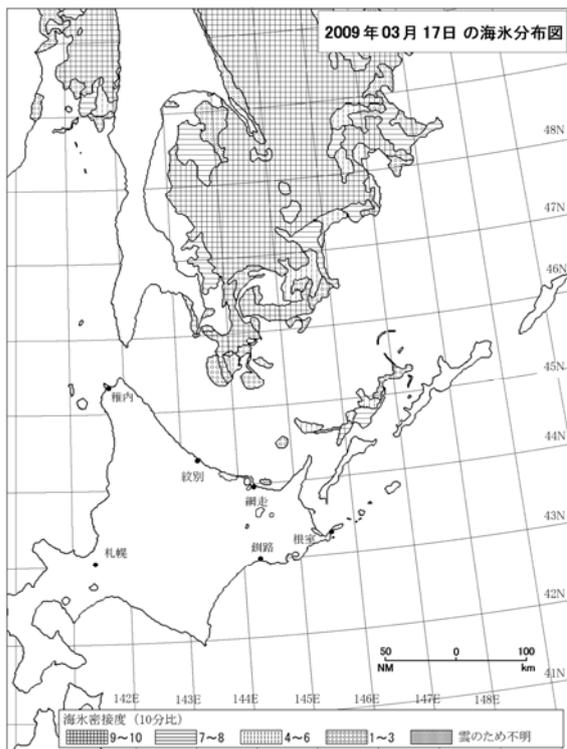
資料：気象衛星

2009年3月13日



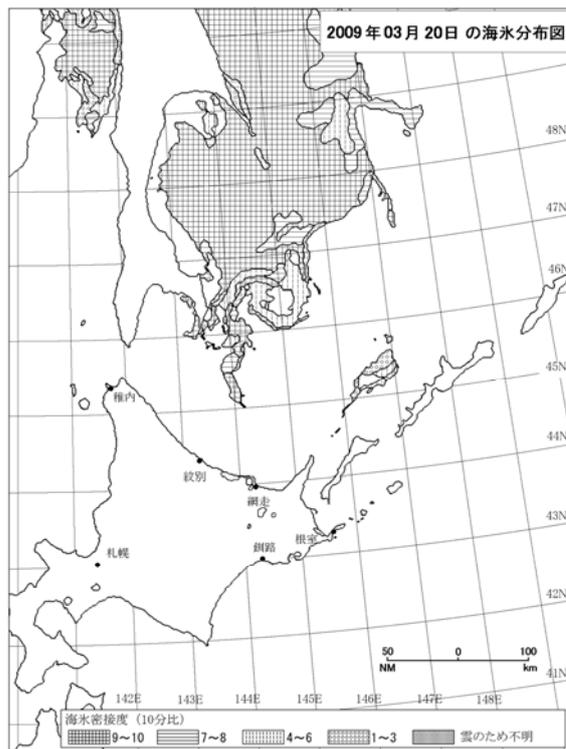
資料：気象衛星・海上保安庁

2009年3月17日



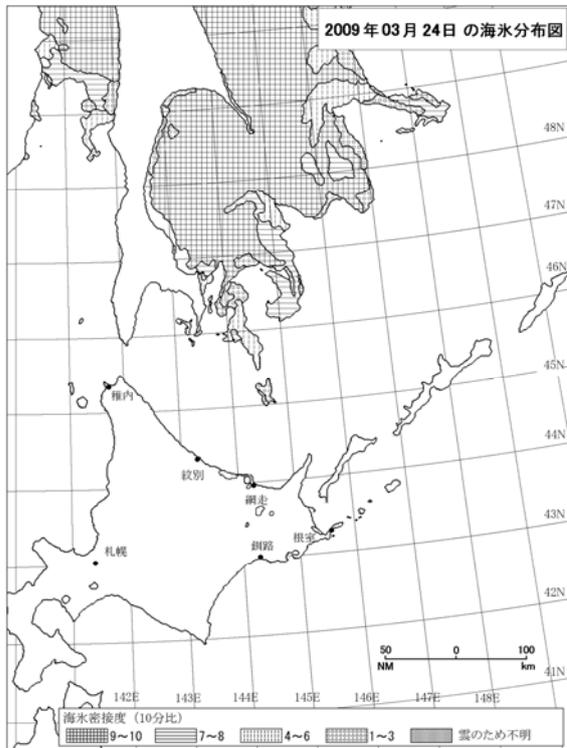
資料：気象衛星・海上保安庁

2009年3月20日



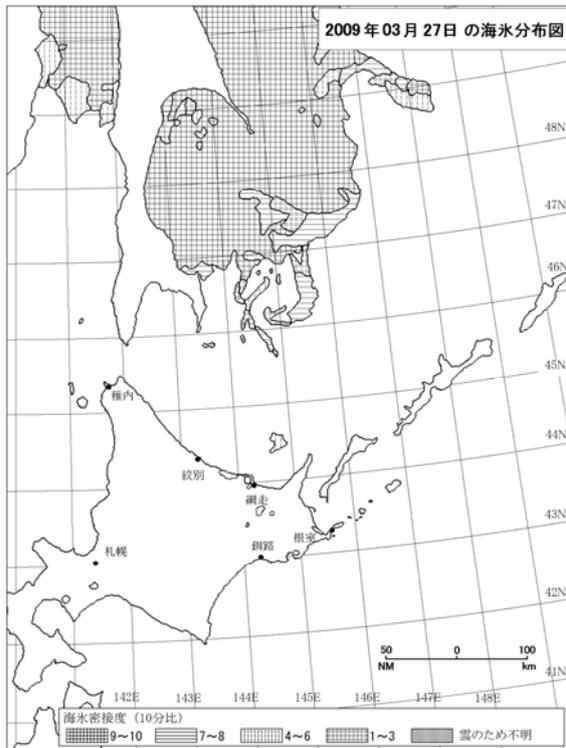
資料：気象衛星

2009年3月24日



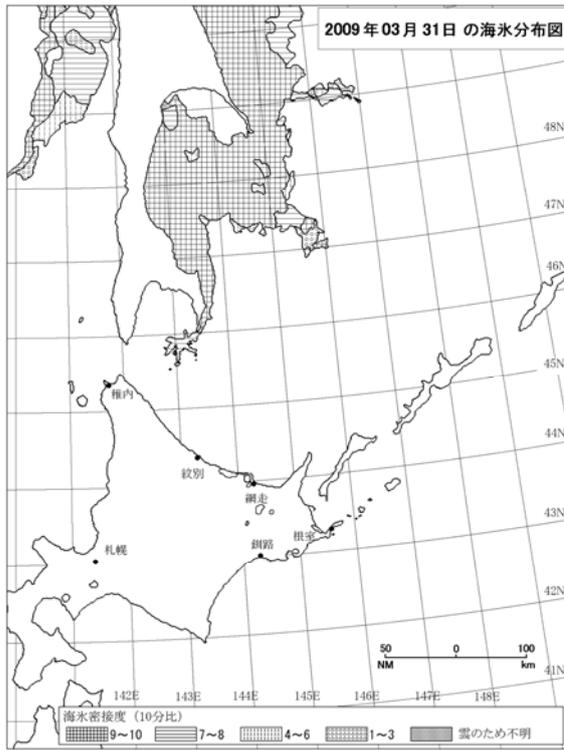
資料：気象衛星

2009年3月27日



資料：気象衛星・海上保安庁

2009年3月31日



資料：気象衛星・海上自衛隊

5. 沿岸海氷観測月表

沿岸海氷観測月表の説明

- (1) 定時観測は9時に行う。
- (2) 全氷量は視界内海面に対する氷量を表す。
- (3) ×は不明を表し、全氷量の括弧は視程障害（5～10km）時の観測を表す。
- (4) 分布状況は、表5-1を参照。
- (5) 結氷の初終日の観測は、1995年海氷年度（1994年～1995年）から全て廃止となった。
- (6) 沿岸海氷観測は、2004年海氷年度（2003年～2004年）から、全氷量、沿岸海氷の分布状況及び海氷現象の初・終日のみとなった。

表5-1 沿岸海氷の分布状況

0	流氷がない。
1	水平線上に流氷が見える。
2	沿岸に定着氷域があり、水路を隔ててその沖に流氷がある。
3	沿岸は水路となって、沖合が流氷域となっている。
4	沿岸は流氷域となって、その沖合には流氷がない。
5	沿岸に流氷域があり、水路を隔ててその沖合も流氷域となっている。
6	沿岸の定着氷に流氷が接着している。
7	視界内の海面はほとんど流氷域となっている。
8	流氷は港までせまっている。
9	流氷は港内にも入り込んでいる。
／	不明

注1：該当する項が2つ以上ある時は、数字の大きい方を使用する。

注2：分布状況には氷量・密接度の大小は関係しない。

ただし、数字符号7は氷量9以上の場合とする。

2009年3月

沿岸海氷観測月表

定時観測(09時)

稚内地方気象台

日	全水量	沿岸海氷の分布状況	記 事
1	×	×	雪のため不明
2	0	—	
3	0	—	
4	0	—	
5	0	—	
6	0+	0	海氷現象終了
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			

海氷現象初終日	平年差	昨年差
流氷初日		
流氷接岸初日		
海明け		
流氷終日		

概 況
 3月6日 港内結氷を観測したが、その後は観測されていない。
 今年度は流氷を観測することはなかった。

2009年3月

沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

網走地方気象台

日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	2	2	
2	×	×	
3	4	2	海明け
4	2	2	
5	(0+)	2	もやのため視界内海面での観測
6	0+	2	
7	0+	2	
8	0+	0	
9	0+	0	
10	0+	0	
11	0+	0	
12	0+	0	
13	0	—	
14	0	—	
15	0	—	
16	0	—	
17	0	—	流水終日 14時流水確認
18	0+	0	
19	0	—	
20	0	—	
21	0	—	
22	0	—	
23	0	—	
24	0	—	
25	0	—	
26	0	—	
27	0	—	
28	0	—	
29	0	—	
30	0	—	
31	0	—	

概 況

17日定時には流水は確認できなかったが、14時に北東に小規模の流水を確認した。この日、流水終日となった。

海水現象初終日	平年差	昨年差
流水初日	2月 3日	14日遅い
流水接岸初日	2月19日	18日遅い
海明け	3月 3日	21日早い
流水終日	3月17日	30日早い

2009年3月

沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

根室測候所

日	全氷量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	0+	0	
2	0	—	
3	0	—	
4	0	—	
5	0	—	
6	0	—	
7	0	—	
8	0	—	
9	0+	0	
10	(0)	—	もやのため視界内海面での観測
11	0	—	
12	0	—	
13	0	—	
14	×	×	霧のため不明
15	0	—	
16	0	—	
17	(0)	—	もやのため視界内海面での観測
18	0	—	
19	×	×	霧のため不明
20	0	—	
21	0	—	
22	0	—	
23	×	×	霧のため不明
24	0	—	
25	0	—	
26	×	×	もやのため不明
27	0	—	
28	×	×	雪のため不明
29	×	×	雪のため不明
30	0	—	
31	0	—	観測終了

概 況

- ・3月9日を最後に定着氷が見られなくなった。
- ・今年度は流氷を観測することはなかった。

海氷現象初終日	平年差	昨年差
流水初日		
流水接岸初日		
海明け		
流水終日		

2009年3月

沿岸海水観測月表

定時観測(09時)

釧路地方気象台

日	全水量	沿岸海水の分布状況	記 事
1	0	—	
2	0+	0	
3	0+	0	海水観測終了
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			

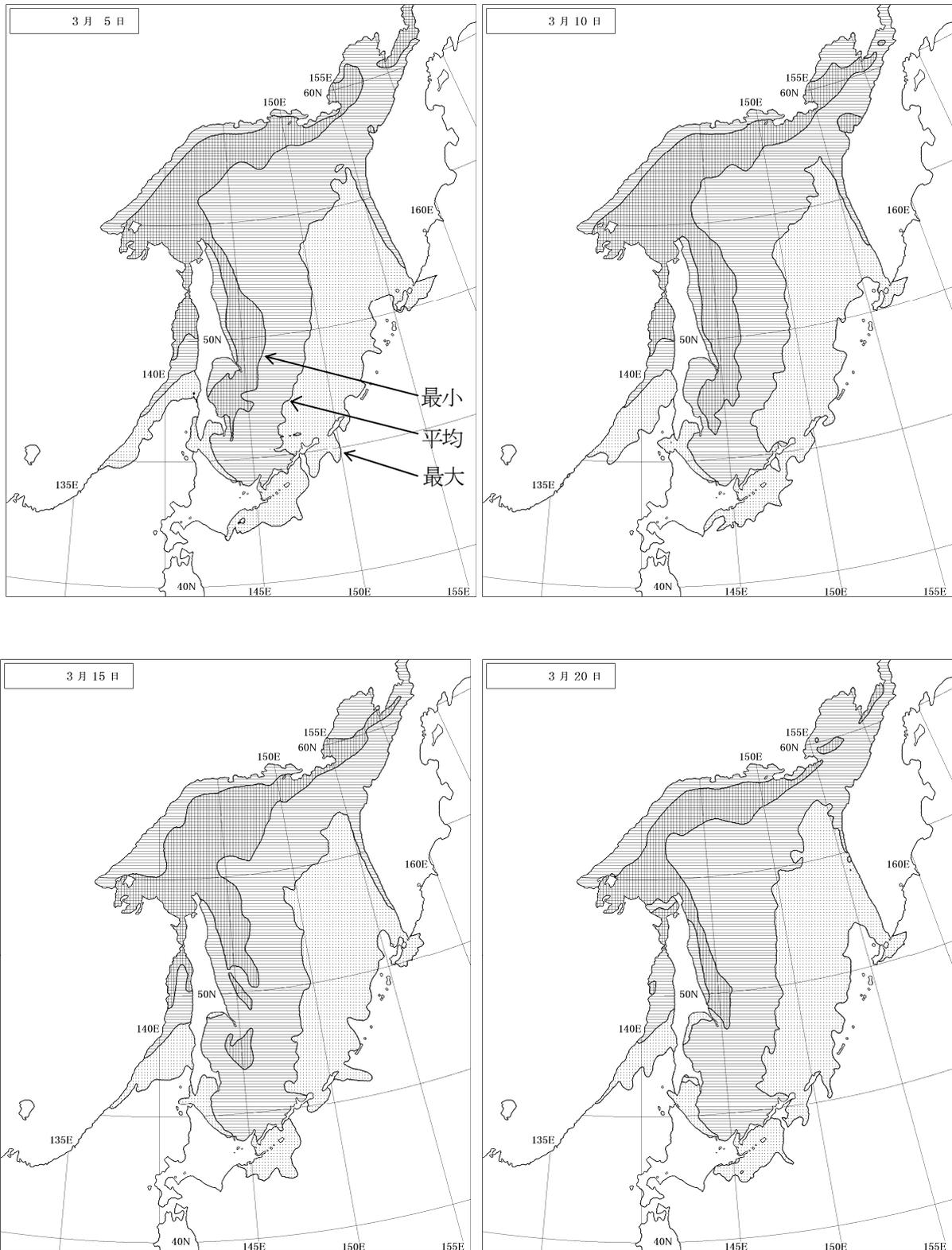
概 況

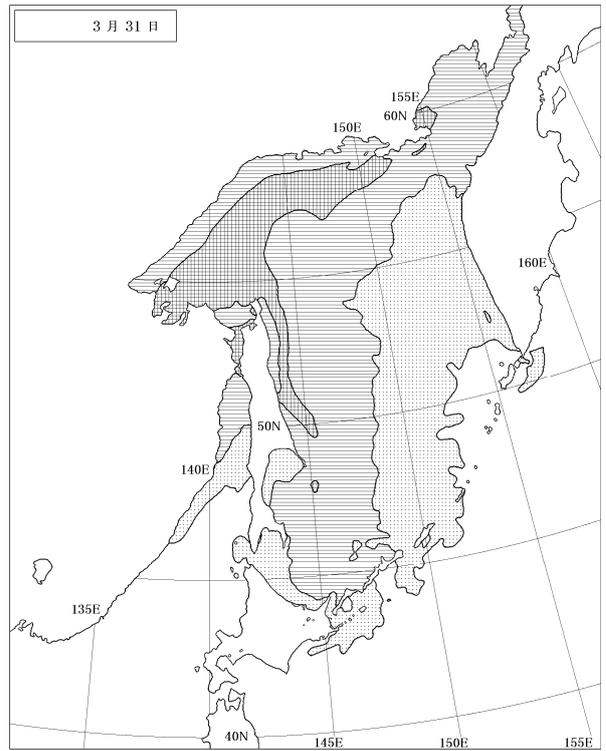
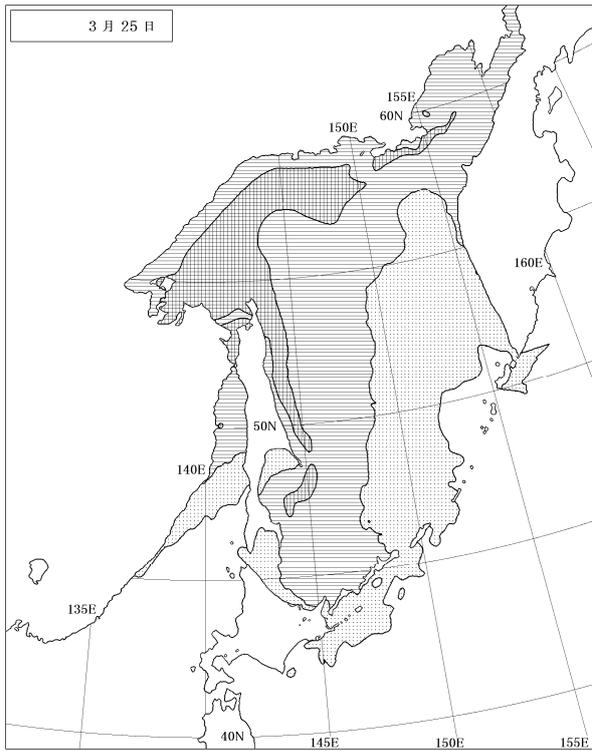
2日～3日 早朝の冷え込みにより南防波堤付近に定着氷を観測。その後は最低気温は高めに経過し、定着氷が観測されず海水現象終了となった。

海水現象初終日	平年差	昨年差
流水初日		
流水接岸初日		
海明け		
流水終日		

6. 参考資料

6.1 オホーツク海30年平均半旬別氷縁図(1970/1971~1999/2000)





6.2 流水初終日等の平年値(1971~2000年の平均)

地 点	稚 内	紋 別	網 走	根 室	釧 路
流水初日	2. 10 (22)	1. 22 (30)	1. 20 (30)	2. 13 (28)	3. 1 (11)
流水終日	3. 11 (22)	4. 5 (30)	4. 16 (30)	4. 2 (28)	3. 18 (11)
流水期間	30 (22)	74 (30)	87 (30)	49 (28)	18 (11)
流水接岸初日	2. 14 (11)	2. 5 (30)	2. 1 (29)	2. 18 (24)	×
海明け	—	3. 16 (30)	3. 24 (29)	—	—

× : 観測項目にあるが、現象を観測した年数が8年未満のため、平均値を算出しない。

— : 観測項目にない。

() : 統計期間内において現象を観測した年数。

注1 : 初日・終日は現象のあった年についての平均。

注2 : 流水期間の平年値は、初日と終日の平年値から算出した値。